

製品名: ICOS ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab12342**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	22kDa

抗原情報

遺伝子名	ICOS
別名	ICOS; AILIM; Inducible T-cell costimulator; Activation-inducible lymphocyte immunomediatory molecule; CD278
遺伝子 ID	29851.0
SwissProt ID	Q9Y6W8
免疫原	抗血清はヒト ICOS の内部領域由来の合成ペプチドに対して作製された。AA 範囲: 31-80

背景

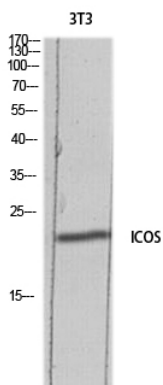
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、CD28 および CTLA-4 細胞表面受容体ファミリーに属します。ホモ二量体を形成し、

細胞間シグナル伝達、免疫応答、および細胞増殖の調節において重要な役割を果たします。[RefSeq 提供、2008年7月]、疾患：ICOSの欠陥はICOS欠損症 (ICOSD) の原因です[MIM:607594]。ICOSDは、体液性免疫不全症の特徴である呼吸器および消化管の反復性細菌感染症を特徴とする分類不能型免疫不全症 (CVID) の一種です。脾腫、自己免疫現象、サルコイド様肉芽腫などのCVIDの他の合併症は見られず、明らかなT細胞免疫不全症の臨床症状も見られません。二次リンパ組織において、T細胞依存性B細胞成熟の重篤な障害が認められます。B細胞はナイーブIgD+/IgM+ 表現型を示し、IgMメモリーB細胞とスイッチメモリーB細胞の数は大幅に減少します。機能:外来抗原に対するすべての基本的なT細胞応答、すなわち増殖、リンホカインの分泌、細胞間相互作用を媒介する分子の上方制御、およびB細胞による抗体分泌の効果的な補助を強化します。T細胞とB細胞の効率的な相互作用と、T細胞依存性抗原に対する正常な抗体応答の両方に不可欠です。インターロイキン-2の産生を上方制御しませんが、インターロイキン-10の合成を過剰誘導します。活性化前のT細胞のアポトーシスを防ぎます。免疫グロブリンアイソタイプのCD40媒介クラススイッチにおいて重要な役割を果たします。誘導:ホルボール ミリスチン酸アセテート (PMA) およびイオノマイシンによる。T細胞の初期段階で発現が上昇し、T細胞活性化の後期まで発現が持続する。オンライン情報: ICOS変異データベース,PTM: N-グリコシル化,類似性: Ig様V型 (免疫グロブリン様) ドメインを1つ含む。サブユニット: ホモ二量体; ジスルフィド結合,組織特異性: 活性化T細胞。扁桃T細胞に高発現し、胚中心頂端明部 (B細胞の最終成熟部位) のB細胞と密接に関連している。胸腺、肺、リンパ節、末梢白血球にも低レベルで発現する。胎児および新生児胸腺の髄質にも発現する。、

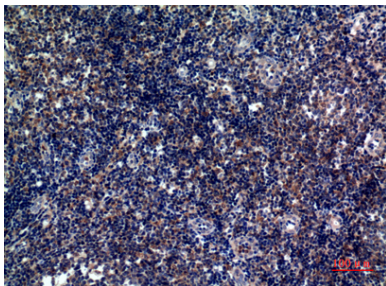
研究分野

細胞接着分子 (CAM)、T細胞受容体、IgA産生のための腸管免疫ネットワーク、原発性免疫不全症

画像データ



ICOS抗体を用いた3T3溶解のウェスタンブロット解析。抗体は1:500に希釈した。二次抗体は1:20000に希釈した。



パラフィン包埋ヒト扁桃腺の免疫組織化学分析、抗体は1:100に希釈された